

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 京都府
都道府県 京都府
対象地域 京都府全域
対象品目 水稲



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

水稲栽培における基肥一発型肥料は、省力化や肥効率の向上、地下水への成分流亡抑制など、様々なメリットから府内において広く普及してきた。一方で、基肥一発型肥料に含まれるマイクロプラスチック殻は、土壌中で分解されずに水田に残り、河川や海洋に流出することがあるため、近年環境汚染物として注目を集めている。

このため、代替肥料の検討・実証を府内の各産地、各品種で実施することにより、環境に配慮し、プラスチック殻を使用した肥料に頼らない農業の確立を目指す。

なお、京都府全域での取組であるが、先進的・モデル的な取組であることから、広く普及することが期待できる。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	移植/施肥					収穫							
技術名	施肥(プラスチック被覆肥料)			追肥(散布機使用)									



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	移植/施肥					収穫							
技術名	施肥(プラスチック被覆肥料代替技術)			追肥(流し込み追肥)									プラスチック被覆肥料代替技術：ウレアホルム肥料又は硫黄被覆肥料を使用

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	5,951 ▶	-	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0 ▶	1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	- ▶	75	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	- ▶	1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	プラスチック被覆肥料	▶ プラスチック被覆肥料の代替技術	プラスチック被覆肥料の使用量低減
省力	散布	▶ 流し込み液肥	追肥作業時間の短縮

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
省力	省力化に資する技術の取組面積（ha）	-	▶ 1	

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

京都府内の水稻生産者へ、「京都府みどりの食料システム基本計画」に基づいた「みどりの食料システム戦略」の推進や、従来の基肥一発型肥料（プラスチック被覆肥料）に含まれるマイクロプラスチック殻による環境汚染について問題提起しつつ、本事業で明らかになったプラスチック被覆肥料の代替技術（硫黄被覆、ウレアホルムを含む肥料）や流し込み追肥の省力化技術について、京都府と関係機関が一体となって、マニュアルを活用しながら技術普及と理解促進を進める。

また、環境や情勢の変化に伴い、プラスチック被覆肥料の代替技術（硫黄被覆、ウレアホルムを含む肥料）の見直しや、新たな品種における地域適応性の実証等、環境負荷低減・省力化技術の開発や普及促進に努める。

関係者の役割

関係者名	京都府農林水産部農産課	京都府農林水産技術センター 農林センター	京都府農業改良普及センター	その他関係機関
役割	みどりの食料システム戦略の推進	実証試験	調査や実証試験の協力 マニュアル等を活用した技術指導	普及センター等と連携した技術指導